

地域版

SASEBO 99 Talk  
M Cafe

# 令和7年度 車座集会 意見交換内容

日時	令和7年5月23日(金)14時から
場所	愛宕地区コミュニティセンター 大集会室
テーマ	<ul style="list-style-type: none"><li>・県道俵ヶ浦日野線 バイパス計画の進捗について</li><li>・愛宕地区の課題について(地域と小中学校の連携について)</li><li>・その他</li></ul>
出席者	地域参加者12名、市議会議員2名、市長ほか関係者4名 合計18名

佐世保市 市民生活部  
コミュニティ・協働推進課

# 令和7年度愛宕地区 意見交換内容(要旨)

テーマ: 県道俵ヶ浦日野線 バイパス計画の進捗について

## 地域参加者

- 県道俵ヶ浦日野線の道路の拡幅工事ということでいちばんはじめに陳情したが、道幅や隣接している民家との距離の問題から、予算的にも少なく早くできて住民の理解も得やすいと思われるバイパス計画に切り替わった。そのバイパス計画の進捗状況について、市の方からお願いしたい。
- 現在の県道について、草が繁茂している。県も時々掃除をしているようだが、夏のいちばん茂っている時期はそのままの状態。自分たちでも草刈りをしているが、個人ですると危ない部分もある。もう少し定期的に掃除してほしい。ちょっと県の方とお話していただければ。
- バイパスは俵ヶ浦の方の発展には絶対必要。佐世保市は他市に負けている気がするので、市長に頑張ってもらいたい。特に俵ヶ浦を発展させ、同時にバイパス事業を優先してやってもらえれば。

## 土木部長

- 会長からお話があったように、令和元年に地元の皆様から要望があって、市から県に要望している。当初令和2年から11年という事業計画であったが、米軍基地と隣接している土地の制限等があり、境界の確定や道を作る際の水処理の行先の変更等が必要となって、14年の事業完了予定となった。ただ、急カーブで大型バスが反対側の車線まで出ているというような状況が複数個所であり、非常に危ないということで、3月に愛宕地区・九十九地区自治協議会の両会長と市長と、県北振興局の方に改めて事業進捗を図っていただきたいと要望した。市も県と一緒にできる限り早く完了するように取り組む。14年度までまだ7年あるので、例えばソフト対策でカーブの箇所には何かしらの目印となるようなものを表示するなどの対策を行う必要があるのではないか、といった申し入れも県北振興局にしている。状況が変わったらまた自治協議会の方にもお話をさせていただければと思う。



# 令和7年度愛宕地区 意見交換内容(要旨)

テーマ: 県道俵ヶ浦日野線 バイパス計画の進捗について

## 市長

- 会長からも経緯について触れていただいたが、当初はカーブ部分を拡幅する計画で県の方も事業を進めていた。しかしカーブの拡幅工事の際に少なくとも片側一車線、場合によっては両車線、全面通行止めになる可能性もあるという報告を受けた。地域の皆様にとって非常に生活の不便に繋がるということもあり、もう少し抜本的な対策をとこのバイパス計画があがり、今着手している。

物価・資材の高騰による事業費の増額や、土木部長が説明したような米軍との兼ね合いによるルートの見直しの必要があり、令和11年の完成が14年に変更となった。我々も一定の理解はするものの、非常に重要な道路であることから、愛宕地区・九十九地区の皆様と一緒に県北振興局に出向き、早期の完成を要望したところ。

九十九島観光公園や展海峰、旧軍が残した資産等を、特に九十九島のすばらしい景観を活かした拠点を作りたいという思いから、私の99の政策で俵ヶ浦半島全体をひとつの大きな自然公園と

みなして、市民又は市外の皆様に訪れていただくような、俵ヶ浦半島の自然公園化という事業を進めており、今年度民間のアイデアで半島全体をブランディングしようと事業パートナーの公募もした。この九十九島のすばらしい財産をより良くするために、皆様と一緒に取り組んでいきたいと思っており、この計画が完成する時にはこのバイパスが必須となると感じている。

この県道が生活の中で非常に重要な道路でありながら、ご不便をかけている現状を解消する必要がある。多くの観光バスがこの県道を通っており、今後さらに増えると予測している。石岳から鹿子前に下りる市道に関しては、石岳の隧道のところにバスとうまく離合できるよう、一時停止してもらうように電光の案内板をかけているが、このようなソフト対策をもって、地元の皆様にも観光バスにとっても通行しやすい体制をとっていく必要があるかと思う。内部の方でも早急に検討をしながら対策をとっていきたい。



# 令和7年度愛宕地区 意見交換内容(要旨)

テーマ: 県道俵ヶ浦日野線 バイパス計画の進捗について

## 土木部長

- (県道の草の繁茂について) 早速、伝える。県道だけでなく市道も同じような状況であり、基本的に年に何回かはしている。即座にという対応はちょっと厳しいかもしれないが、今の置かれた環境をしっかりと県の方に説明させていただく。



## 市長

- (バイパス事業について) 激励の声をかけていただいたと思っている。残念ながら、新幹線の開通以来、沿線の大村・諫早、長崎は非常に勢いがあると感じており、IRの不認定以降、佐世保では何もなくなったというような感は否めないと思う。佐世保も良くなったと思っていただけるところ。いろいろな計画を立てているところ。これからが正念場だと思うし、佐世保は良い魅力がたくさんあると思っている。私も先頭に立って精一杯これから佐世保を盛り上げていきたいので、楽しみにしてほしい。



# 令和7年度愛宕地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:愛宕地区の課題について(地域と小中学校の連携について)

## 地域参加者

- 町内会の担い手も、だんだん高齢化している。今のPTA、育友会の中学校の保護者に、もう少し地域の活動に参加していただくためにはどうしたらいいだろうかということをしている。地元は素晴らしい自然がある場所だと子どもたちに伝え、地元に残ってもらえるような子を育てたいという気持ちで、赤崎岳の登山道の整備等を始めた。昨年度から、赤崎小学校がコミュニティスクールになったことで、地域との連携もだんだん深まってきており、今がいちばんそういうことに関して動くにはいいチャンスではないのかと思ひ、このテーマを挙げた。SSKに入っている、ちきゅう号の見学会の案内を出したら、151名も参加があり、なにかあれば人は集まると感じた。愛宕地区で考えている将来像も、学校・育友会・PTA含め、みんなでやっていけたらと思う。

## 学校教育部長

- コミュニティスクールについて。「開かれた学校であるべき」と言われてから年数が経ち、「地域とともにある学校を目指すべき」と文部科学省が方針変更をした。そこで学校運営を地域の皆様と共に当事者意識を持ってやっていきたいと思いますという取り組みとして、3つの権限を与えられた学校運営協議会という組織ができた。佐世保市には平成27年に小佐々地区に初めてコミュニティスクールが誕生し、令和6年度時点で赤崎小学校を含めた13地区・19校となった。このコミュニティスクールにより、地域の皆様がより学校運営に携わってくださって、子どもたちの活動も大変広がりをみせている。愛宕中学校もおそらく導入を検討してくださっていると思っている。先ほどのご意見にもあったが、地域の魅力的な教育資源、いわゆる魅力的な人・もの・できごとを学校教育に活かして、より質の高い教育を進めていきたい。そこに地域の皆様のお力添えをいただけないか、と愛宕中学校が考えておられる。

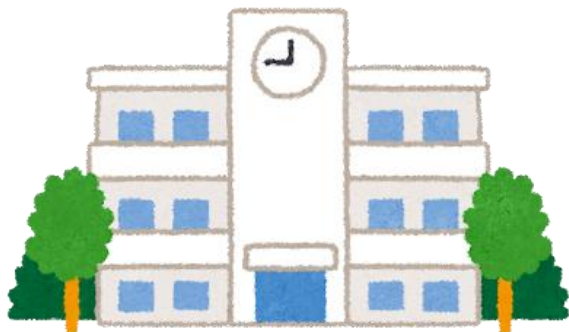


# 令和7年度愛宕地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:愛宕地区の課題について(地域と小中学校の連携について)

## 学校教育部長

今全国的に、生徒が地域の課題に参画して解決に寄与するという探求的な学びが推し進められており、“Agency”、“Student Agency”という能力を育成することが強く求められている。愛宕中学校がそこにこれからしっかりと取り組んでいきたいというふうに聞いている。



## 市長

- 学校教育部長から話があったように、平成27年度から小佐々地区で、小佐々中学校・小佐々小学校・楠栖小学校の3校が「海光る町学園」をつくって、コミュニティスクールをスタートし推進していただいているという事例もある。今佐世保では、こういうものを横展開している状況かと思うので、各地域で参考にさせていただいて、これからのコミュニティスクールをご検討いただきたい。この地域では愛宕地区と九十九地区の両地区に跨っていることが課題だが、日頃からしていただいているように連携を取って進めていただければと思う。



# 令和7年度愛宕地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:愛宕地区の課題について(地域と小中学校の連携について)

## 地域参加者

- 子どもたちが自分でテーマを決めたりしながら、それを追求していくことができる総合的な学習の時間をしっかり充実していきたいと、本校が目指す「ふるさとを愛する生徒」、「知性と感性が豊かな生徒」、「活気ある生徒」という生徒像の中の「ふるさとを愛する生徒」に着目し、ふるさとに繋がる子どもたちを育てていきたい。総合的な学習の時間を3ヶ年計画を立て、地域と繋がりその関係性を深めながら、この地域をどう考えていくかを段階的に進めていくことができれば、愛宕地区の自然や歴史を学んで、地域だけでなく世界のことまで含めて大きな視野を持って考えていくことができる子どもたちが、1人でもでてくればいいのかなと思う。

愛宕地区には観光資源や歌など、いろんなすばらしいものがあるので、学習活動に結びつけて子どもたちを育てていきたい。その際に地域の自治協議会をはじめとした皆様方に、いろいろな手助けをしていただくことが必要になってくるのではないかと考える。学びを深めていくということで、地域の方々には今後も協力をいただけると嬉しい。

愛宕中学校は自治協議会が愛宕と九十九の2つにまたがっている点で難しさがあるので、そこを考えながら、今後進めて行く必要がある。ゆくゆくは、コミュニティスクールの検討が必要となると思うし、そうなることで地域の方々の意見や考えを取り入れた学校運営ができていくようになる。よりよい形で子どもたちの学校教育ができるように頑張っていきたい。



# 令和7年度愛宕地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:愛宕地区の課題について(地域と小中学校の連携について)

## 市長

- 愛宕中学校の方でも、総合学習として3年間計画を立てながら、地域との繋がりをつくっていただいているので、そういう意味から今後それぞれの学校が目指す方向性の中で、またコミュニティスクールの話も熟成されていくのではないかと期待している。



## 地域参加者

- 3年前に赴任した際に、愛宕中学校の校長先生と、当時の船越小学校の校長先生と、3人でコミュニティスクールをやっていきたいという話をした。先ほど話があったように、2つの自治協議会を抱えているこの地区でいきなり小中学校合同というのはなかなか難しいだろうと。まず船越小学校は九十九自治協議会、赤崎小学校は愛宕自治協議会とやっていき、その中で最終的には中学校もひとつになってやっていくという方向にしていこうという考えを持ちながらスタートした。小学校は、昨年度からコミュニティスクールを始めた。4年生が総合的な学習の中で、海きららの来館者に魚の説明をしているのを見た別の来館者から「ここの学校、良いですね。」とってもらったり、森きららの遠足の際に公民館長さんや学童さんに協力していただいたり、また地域見守りのおばあさんが、風邪で来れなくなった時に辞めると言われていたが、お礼の手紙をみんなで書いていた時に「じゃあ頑張る」となって、今も継続してくれている。



# 令和7年度愛宕地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:愛宕地区の課題について(地域と小中学校の連携について)

## 地域参加者

学校は子どものためのものだが、地域の方も楽しく元気でいらっしゃるので、地域の為にもあるものだと思う。中学校の餅つき大会に小学校も協力で参加させてもらったりとかもできている。そういうことを、どんどん活動としてやっていったらいいのかなと思っている。地域の熱い思いを受けとめながら緩やかに頑張っていくので、温かく見守っていただければ。



## 市長

- 赤崎小学校の方で、コミュニティスクールを令和6年からスタートされたばかりなので、緩やかに進めていただきたいと思う。



# 令和7年度愛宕地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:愛宕地区の課題について(地域と小中学校の連携について)

## 地域参加者

- 愛宕地区に住んでいても、パールシーのシーカヤックに乗ったことがないと思う。育友会でシーカヤックに乗るイベントの提案をしたが、中学生は部活で時間が取れないという話だった。授業等でそういうイベントをしてもらえれば、九十九島やパールシーの良さをわかってもらえるのではと思う。
- シーカヤックについては、2年生の子どもたちが森きららと海きららに大体半分に分かれてという形で、バックヤード体験みたいなことをやっている。
- コロナ明けに、中学校の育友会の餅つき大会を継続するか否かを決める際に、保護者からの反対意見が多く、保護者との距離感も難しくなってきたと改めて感じた。決断する時に、地域との関わりをなくしたくないというのがいちばん強くあった。
- 先ほどのイベントの提案なども、本部の中だけで話が止まってしまうと、知ることがなくて行事に参加できないということもある。行事のお知らせも、子どもからもらっていないという保護者の声も結構聞く。難しい点もあると思うが、地域との交流行事はなるべく増やしていきたいと思っているので、頑張る。
- 地域と学校との繋がりをどうしていくか、地域の行事にどうやったら子どもたちや保護者が参加できるのかが今年度の課題。個人的には地域との繋がりが必要だと思う。地域と保護者、子どもたち、先生との繋がりを持てるような場を作りたいという思いで、昨年度から自治協議会の協力を得て、地域と学校の協同で赤崎小ふれあい祭を開催している。交流の場を持ち、みんなが顔見知りになって楽しい時間を過ごすことから、何か広がることがあればという思いでやっている。



# 令和7年度愛宕地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:愛宕地区の課題について(地域と小中学校の連携について)

## 市長

- 地域の関わり方は非常に重要なことだと思う。町内・公民館長、民生委員も同様に成り手が少ないということが大きな問題であり、それが直接コミュニティの存亡に繋がっているという大きな問題に今直面している。市民生活部を中心に、様々な形でコミュニティの維持に取り組んでいるが、子どもを中心に考えていく地域というものが重要ではないかと思う。

市の若者活躍・未来づくり課の「Sasebo Change」という事業で、若い人たちのサークル活動が今活発に行われていて、その中に高齢者に体操を教えたり、昔の写真をカラー写真にして贈るなどして、好評を得ているものがある。このことをぜひ他の地域でもやっていきたい。

そのように、子どもたちを軸にすることで、親世代や若い世代がいろいろな形で地域に関わり、地域の皆さんも「学校や子どもたちの行事」と区切ることなく、いろいろな事業に参画をして、一緒にやっていくことが、地域の活性化に繋がっていくのではないかと。そして若い世代が、地域の担い手になって地域を支え、また次の世代の子どもたちを支えていこうというような好循環にも繋がっていくのではないかと印象を持っている。

事務局長・育友会会長のお話を聞いていると、まさに子どもたちを中心に、地域との関わりを積極的に持っていて、本当に素晴らしいことだと思う。ぜひ続けていただきながら、愛宕地区全体の活性化とコミュニティの維持に繋がっていただきたい。



# 令和7年度愛宕地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:その他

## 地域参加者

- 赤崎岳に愛宕神社がある。自治協議会はじめ地域や小・中学校PTAの応援も得て、登山道の整備を年に3回行っている。登りやすいという声や、赤崎岳からの景色についてお褒めの言葉をいただいているので、今後も続けていきたい。氏子会は高齢者が多いため、草刈りや枝払い等はいいが、自分達で道路整備は困難な状況なので、困っている。
- 十数年前に公民館長をしていた時は、市役所からの書類はほんの少しだったのに、今は大量にある。本当にやめてほしい。

## 市民生活部長

- 助成金を利用していただく際に出していただく書類は、確かに増えているかと思う。なんとか町内の皆様の負担を減らせないかと、防犯灯の補助申請を一括して全部なしにするように見直した例などあるが、他に膨大な書類があらうかと思う。できるだけご負担が減るように知恵を絞っていきたい。

## 市長

- 奉賛会でいつも清掃活動をいただいて、改めてお礼を申し上げたい。
- 町内会の役員の引き受け手が少ないことは、非常に問題であると思う。書類等が多い点については市民生活部長が申し上げたとおり、できることから簡素化ができるように、役員の皆様方の負担ができるだけ減るようにこれからも心がけていきたい。



# 令和7年度愛宕地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:その他

## 地域参加者

- 本日の車座集会で、初めて自治協議会らしいことができた。自治協議会は、町内会と同じようなことをやっている。自治協議会設立の趣旨を、部長さん達にももう一度把握し、しっかり勉強してもらいたい。車座集会のような会議が、本来の自治協議会の仕事だと思う。高齢化による役員の成り手不足で、コミュニティが崩れかかっているので、自治協議会の在り方をもう一度考える必要がある。
- 町内会役員の成り手不足と同時に、町内会に加入しない方や辞める方が増えている。町内会活動について知らない方がほとんどだと思うので、市HPの紹介動画と同じ内容のカタログを役員や町内会に配ってもらい、引っ越してきた方の勧誘に使えればと思う。

## 市民生活部長

- 勧誘を常に心に置いてくださっていて、ありがたいと思う。加入促進のパンフレットであったり、先ほどもご紹介いただいた動画なども準備している。折に触れて、皆様に使っていただけるようにお届けもさせていただければ。



# 令和7年度愛宕地区 意見交換内容(要旨)

テーマ:その他

## 市長

- この会についてのご評価をいただいたことにお礼を申し上げます。地域と共にある、或いは民間の企業の皆様方と一緒にやっていく、そういう垣根を少なくして、忌憚なくいろいろな意見交換が率直にできるように、我々の壁を低くすることが、これからの我々の仕事ではないかなと思う。こうした機会もどんどん行って、多くの市民の皆様方に触れ合って、ご意見・声を聞いていきたいと思うので、こういう会に限らず、いろいろな形で自治協議会・コミュニティセンター・市議会議員の皆様、我々に直接でもかまわないので、いつでもお声がけをいただければと思う。
- 市内全域で、町内会に入るメリットはという話が出ているとよく聞くようになった。災害や防犯の面で大きな役割を果たすのが町内会だと思うので、いざというときの役割が極めて大きいのではないかと。また、町内会がしっかりしているところは犯罪発生率が低いという統計も出ているようで、ある種保険的な意味合いもあるとお伝えする必要があるのではないかと。いずれにしても地域の皆様方のお力を得て、また我々も一緒になって、いろいろな形で町内会の加入、普及を図っていきたい。



# 令和7年度愛宕地区 意見交換内容(要旨)

